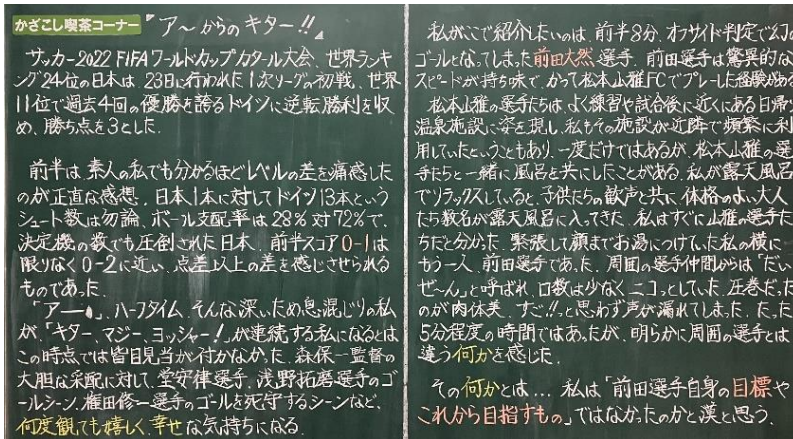




2学期終業式 宮下校長先生のお話より

いよいよ令和4年の終わりと、新しい年を迎える時期になりました。日本漢字能力検定協会による、今年の世相を1字で表す「今年の漢字」は「戦」でした。ウクライナへの軍事侵攻など戦争を意識した年であったことや、円安・物価高など生活の中での「戦い」の他、記憶に新しいサッカーワールドカップでの日本代表チームや、冬季北京オリンピックでの日本人選手の挑戦や活躍など、スポーツの熱戦が繰り広げられたことが選出理由でした。

その中で、一喜一憂したサッカーワールドカップでの日本代表チームの戦いに目を向けてみます。日本代表チームは、優勝経験国の2チームがいるグループリーグ突破は困難であろうと思われていました。しかし、強豪国のドイツとスペインに逆転勝ちをして1位通過となり、日本中を沸かせてくれました。この勢いで、目標とするベスト8への期待も膨らみましたが、クロアチアとの延長戦の末、惜しくもPK戦で敗退しました。このPK戦後のロッカールームでのブラボー長友選手の言動を紹介したいと思います。



【図1】かざこし喫茶コーナー(教頭黒板)より

「ありがとう、拓実。お前勇気あるな」と言って優しく抱擁した後、「次の未来に繋げろ、問題ない。顔上げて帰れ」と南野選手だけでなく周囲にも聞こえるように語った。さらに、南野選手に「勇気あるな、マジで。俺は蹴れん。マジありがとう。めっちゃ楽しかったな」と続けた。長友選手の言動はまさにPEPTALKであり、日本代表はすでに「今ここから始まる未来」へと前を向いています。また、勝利は目標であり、目的ではないことも分かります。

集団スポーツには、点と点が線でつながる面白さがあります。選手を点に例えて、ボールを線で追ってみるとこのことが分かります。シュートチャンスを逃さずゴールを決めた選手は、もちろんヒーローですが、その選手にパスを送る選手がいるからシュートチャンスが生まれます。さらにはアシストする選手にパスをつなぐ選手も貴重な存在ですし、体を張ってディフェンスをする選手がいなければ、チームを勝利に導くことはできません。加えて、今回の日本代表チームは途中交代する選手が持ち味を十分発揮し、チームの総合力は高まりました。チームスタッフも加えたワンチームのまとまりもありました。そして、戦いを終えた後の選手のロッカールームがきれいに整理整頓されていることや、サポーターがスタンドのごみ拾いをして会場を去るクリーン活動の姿が、世界中から称賛されました。これは、学校での道徳や清掃を行う日本の文化がこの行為に及んでいるかもしれません。

また、森保監督は日本のよさを「チームの団結力、一体感、つながる強さである」と語っていました。一部批判的な報道も耳にしますが、海外メディアから「チームがピッチでのパフォーマンスで皆を驚かせた一方で、日本のファンはピッチ外での振る舞いですべての人の心を掴んだ」などと評価されると、私自身も誇らしくなったり活力が湧いたりします。

さて、この2学期も、我が西中の教育活動は、後退することなく前進し充実していました。これはひとえに生徒の皆さんと先生方の活躍とパワーのおかげであり、感謝をしています。夏休み明けの学年行事が終わると、かざこし祭に向けての準備に追われました。9月には、1年2組「数学」の教育課程研究協議会はじめ、指導主事等の先生方も様々な授業を参観されました。中体連新人戦では、榎原選手が水泳で優勝、宮澤選手が陸上で優勝を飾りました。

そして、第49回かざこし祭が開幕しました。今年もまた生徒会の皆さんが随所に趣向を凝らし、感動的な音楽会や文化部の発表、躍動的なスポレク等を展開してくれ、生徒会の力を見事に集結させ、学校行事一大イベントである文化祭を大成功に導いてくれました。部活動中体連新人戦でも、それぞれのチームが善戦し、卓球部とサッカー部が勝ち進んだり、協会や連盟が主催する大会では、男子バレー部が飯伊地区で第3位になったり、先日の卓球個人戦県大会では、男子の部に小久江選手・林選手・矢澤選手、女子の部に宮嶋選手が出場したりしました。

さらに、羽場地区・丸山地区の運動会や文化祭、飯田市の風越登山マラソンなどの地域行事に参画し、出演したり表彰されたり、ボランティアスタッフとして活躍する生徒の皆さんもいました。エスバードで開催された南信州環境メッセでは、小林さんと福澤くんが西中を代表して、SDGs活動の取組みについて発信してくれました。飯田風越高校で行われた英語スピーチコンテストでは3年生の新美さんのスピーチが堂々としていたと飯田風越高校の校長先生が私に電話をくださいました。また校長室では、1年生の鈴

木さんは信濃毎日新聞社の「スクラップ新聞コンクール」で奨励賞、同じく片桐さんの絵画が「信州子ども絵画百年館」に永年保存されるということで、賞状を手渡しました。

その他、私が気付かずに申し訳ありませんが、日常においても様々な場所で活躍し、人に親切にしたり貢献したりするなどして、我が西中の評価・評判を高めてくれています。先週も「飯田西中の生徒さんが気持ちのよい挨拶をしてくれて、とても嬉しい気持ちになり、本当に元気が出ました」という電話をホームページで紹介したところです。

10月下旬には、丸山小学校6年生も参加した「かごこし学習発表会」が行われ、11月中旬には、1年1組「数学」、2年2組「理科」、3年2組「保健体育」、2年1組「総合的な学習の時間」を長野県下の先生方に参観いただき、信濃教育会の全県研究大会を行いました。いずれも充実した時間を共有することができましたし、勇気ある発言の連鎖もありました。参観した先生方からも、生徒の皆さんが主体的だったり真剣に取り組んだりする姿に対して、お褒めの言葉をいただいています。実は、この研究大会は今年が立候補制の初年度でした。長野県には小・中学校が539校ありますが、学校として「授業公開やります！」と立候補したのは8校でした。これは、先生方からの自発的な声によって実現したわけですが、我が西中には、挑戦する先生方とこの挑戦を支える先生方がいらっしゃいます。蛇足ですが、授業後の語る会では「リフレクション」等が話題に上がりました。共同研究者の國學院大學 田村 学先生は、このとき宇佐見先生から発せられた「リふる」というワードを何度も繰り返し、強く興味関心を示されていました。

話をまとめます。生徒の本分である学習の成果はどうでしたか？ 今学期はその成果を見るべく、中間テストや期末テスト、3年生は実力テストに取り組みました。先生方もテスト作成に思案し、受けもちクラスの数分を採点します。教科担当二人なら100人前後を採点するのです。テスト結果が出ると、生徒の皆さんと同様に一喜一憂しています。是非皆さんには、部活動や生徒会活動等で経験してきている準備の大切さとか、本番で力を発揮するというのを、学習面でも生かしてほしいと思います。

人生100年時代の中で先生方と皆さんが、共に生活するのはわずか1年、長くても3年です。様々な家庭事情があることは承知の上で話をしますが、先生方、特に担任の先生方は皆さんの親御さんと同じか、もしかしたらそれ以上に皆さんの将来のことを案じています。皆さんのよりよい成長とよりよい生活を願いながら、最善は何かを考えていてくれます。

明日からの年末年始休業ですが、支えてくださっている方々に、いらぬ心配をかけないように生活してください。そして新たな一年がよきものになるよう、しっかりと「新年の抱負」を立てましょう。

何をつかみ、何を得てきた二学期であったのか…2022年

2学期が終わろうとしています…と同時に、2022年もあと4日。

「本当にヒヤヒヤ、ギリギリ…とにかく学校でできるあらゆる手は尽くしたという表現が妥当であると感じた3年奈良・京都修学旅行」、「3日間は実現できなかったものの1日でも仕事に対するやりがいの意義を感じ取った2年職場体験」「学校での宿泊体験は叶わなかったもののテント設営やパッキング等、貴重な体験をすることができた1年防災学習」このように2022年の学年行事を振り返ると、今年も新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けつつも、少しずつ熟考し、工夫すれば何とかできるようになる、なってきたという印象を私は受けています。

話を3年生に焦点化します(2年生は来年、1年生は2年後と、何れは通る道)。上記の学年行事の他にもかごこし祭、各種部活動の大会、かごこし学習発表会など、自分の力を燃焼し、何かをつかみ得てきた一日一日の連続。それらがまるで遠い日の出来事のように思われるかと思うと、つい昨日のこのようにも思われるかもしれない。それは私たち(3年生)の生活の中に、「進路」という二文字がのしかかってきたからかもしれません。この「進路」というレンズが、過去のことを大きく見せてくれたり、小さく見せてくれたりしているのでしょうか。現実と理想との狭間の中で、自分の進路を考えていく過程で悩み、どうすればよいのか分からなくなった人もいるのではないのでしょうか。

今は、自分の力で自分の道を選び、決定し、切り拓くという最初の時なのです。だから悩むことはむしろ自然なことです。この大切な時に悩まなかったら、いつ悩みをもてるのでしょうか。真剣に自分を見つめ、振り返り、取捨選択し、決定して、それを実現に向けて具体的に実行・実践していくこと…。これが私の捉える「悩み」に対する広義的な定義です。自分の進路について苦しみ悩んだ人の二学期は、その人の心を深く、豊かにしたことでしょう。西中3年生、1・2年生にとっての光の射す方へ

<保護者の皆さまへのお願い>



新型コロナウイルスの第8波により、南信州圏域では、感染警戒レベルを5として注意喚起が行われている状況が続いています。年末年始休業中も改めて基本に立ち返り、感染しない、感染させない行動を徹底するようにお願いします。何かありましたら学校にお電話ください。休日と学校閉庁日(12/29~1/3)は、校用携帯(080-7190-7148)にご連絡ください(学校代表連絡先0265-22-0143)。令和4年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。

その他、「学校からのお知らせ」、「今日のできごと」などの詳しい情報は、飯田西中学校のホームページをご覧ください。



<https://iidanishi-jh.iidacity-educationboard.com/>

(文責：教頭 下平 将揮)